

日常診療におけるかゆみ患者への対応：病態から考える適正治療

森脇 真一

(大阪医科大学 皮膚科学教室 教授／大阪医科大学医師会 会長)

皮膚疾患の多くは「痒み」を伴うため、皮膚科に来院する患者では外見的变化のみならず「痒み」という耐え難い症候にも悩まされている。皮膚にトラブルが生じた場合、患者の半数は薬局の薬を買ったり、内科、小児科などのいわゆる「かかりつけ医」を受診するとされているが、時に誤った診断、不適切な治療が長期にわたり実施され、症状が慢性化、遷延化することもしばしば経験する。

今回の講演では、日々第一線で一般臨床に携わっておられる先生方を対象として、

- ① 日頃よく経験し「痒み」を伴う common skin disease（接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、脂漏性湿疹、乾皮症、蕁麻疹、乾癬、表在性真菌症、疥癬など）に対する適切な治療と痒み対策（外用療法の基本的事項、抗ヒスタミン薬の適用使用と注意点、各種疾患に対する生活指導）、皮膚科専門医への紹介のタイミング
- ② Common ではないが、すぐに皮膚科専門医にご紹介いただきたい瘙痒性皮膚疾患（多形紅斑、自己免疫性水疱症、皮膚悪性腫瘍、各種膠原病、原因不明の皮膚瘙痒症など）の臨床的特長

に関して、各疾患の病態、最新の話題をふまえて言及する。